

個人山行

北アルプス：針ノ木古道

◆日程 2022年10月8日(土)～9日(日)

◆メンバー L：OM、MD

針ノ木谷から針ノ木峠を目指す、廃れつつあるルート。秋の三連休でも人がいないと踏んだ。

10月8日(土) 雨のち曇、時々晴れ

小雨。平ノ小屋まで延々と歩く。栈橋で渡し船が定刻に出る気配なし。船室内に話しかけると、3人とも寝ていたという。どうにか対岸に渡る。

トンネル状で中を通れる不思議な避難小屋を抜け、しばらく歩くと針ノ木谷に近づく。白い砂で明るく、澄んだ水が青く見える美しい沢だ。この先、無数に渡渉するが、最初の渡渉点だけは橋(写真)がかかっている。その先を少し進んだが、樹林帯で幕営適地がない。結局、橋を渡ったところに戻って幕営。クマ除けのために焚火をして楽しんだ。ここは素晴らしい。おすすめだ。



CT：扇沢6：30＝黒部ダム6：46-平ノ小屋11：00/12：10 - 対岸12：20 - 最初の渡渉点13：00(幕営地)

10月9日(日) くもり時々晴れ、のち雨

よく晴れた朝になった。最初の渡渉は山靴で何とかしたが、次は飛び石がなく、沢靴に替えた。渡渉しては樹林帯の中のルートを進み、それが尽きるとまた沢に出て渡渉、これを繰り返す。意外にもルートは明瞭。沢の水は冷たく、踏み入ると脳天まで刺激が走った。くるぶしより深いのはごめんだ。しかし、畏友はそのまま沢を行こうとする。

高巻きが始まって沢を離れる。奥山に踏み入った感がある。でかいフンがあったが、あれはクマだろう。カラビナをガチャガチャいわせた。沢を離れると、沢の出会いとかを見逃しがちになる。対岸は見えないし、沢が枯れていることもあるからだ。

高巻きが終わると、大きな滝があった。船窪へのルートと別れ、針ノ木谷出合で本谷と別れる。ここいらはわかりにくく、地図の後、GPSでも確認し、二人で話し合った。

最初は少しルートが不明瞭だが、沢が枯れる頃によくなる。沢靴を山靴に替えた。枝がザックに引っかかるのが煩わしいが、ヤブ漕ぎというほどでもない。

高度を上げると紅葉が美しく、槍が遠望できた。七倉岳と船窪岳が針ノ木谷にガスがなだれ込むのを押さえていたが、ついにそれが決壊するというドラマティックな景観(写真)を眺め、「あのままガスがたまったらどうなるんだ？」なんて能天気話した。きつい登りをどうにか針ノ木峠まで上がったら、大粒の雨。さっきのガスの流れは下の方だけではなく、上の方で自分たちにも雨雲が迫っていたのだった。



まだ早い時間だったので、針ノ木峠での幕営はやめにして、もう雪渓がなくなってしまった針ノ木大雪渓コースをさっさと下った。しかし、大沢小屋から先の最後の1時間のアップダウンがしつこくて辟易とした。

CT：幕営地6：30 - 針ノ木谷出合10：30 - 針ノ木峠14：00 - 扇沢17：10(記：OM)